

[特集]クローズアップ大村人拡大版

“ひと”が元気



“まち”が元気



## 大好きな大村のために 立ち上がった人たち

魅力ある地域づくりが大切です。  
今回の特集は、魅力ある地域づくりに取り組む元気なひと々を紹介。行政主導ではなく、住民自身が大村のためにという思いで取り組んでいる皆さんにスポットを当てます。地域の価値をどのように磨き上げ、地域づくりに生かしているのか。皆さんの熱い思いをおうかがいしました。



住みなれた地域で  
いきいきと暮らして  
いくために

県内都市で唯一、人口が増え続けている元気なまち大村市。「行きたい！働きたい！住み続けたい！」まちの実現に向けて、取り組みが始まったところです。

ふるさとに対する思いは人それぞれですが、誰もが住みなれた地域でいきいきと暮らしていけるまちを望むもの。生活の拠点として選んだまちを住みよいまちにするためには、

第2回いす-1グランプリ九州大会in長崎街道大村宿  
(平成27年11月29日)

人と人のつながりを大切にしながら成長してきました。

## 大村市未来企画部

### 人の成長は、まちの成長につながる

「大村を元気にしたい」と意欲を持った仲間が集まり、「楽しい」を形にしながら活動するまちおこし団体「大村市未来企画部」。これまで多くのイベントを開催してきました。

団体の代表を務める**芦塚義幸**さんは、大村を盛り上げるため走り続けています。「設立のきっかけは街コン。市内で初めて手がけました。予想を超える盛況ぶりに、達成感はひとしおでした。」と、当時の思い出を振り返ります。

このほかにもさまざまなイベントを企画し、形にしてきた**芦塚**さん。「同じ思いを持った仲間とともに、地域の人たちを巻き込んで新しいことに挑戦してきました。感謝の言葉しかありません。」**芦塚**さんは、人と人のつながりを大切にしながら、これまで成長してきたといいます。



大村市未来企画部 代表  
**芦塚 義幸**さん

### 活動フォト★

①5月8日には、熊本地震復興支援チャリティーイベントをプラザおおむらで開催。②多くの人たちに出店のご協力をいただきました。③チャリティーイベントの報告に園田市長を訪問しました。



「ひとが元気=まちが元気」

①中央商店街アーケードをコースに、いす-1グランプリを開催。②長崎街道マルシェin大村宿も同時に開催。③内海さんが営むワーキングスペース。さまざまな催しが企画されています。



### 活動フォト★

## 大村市未来企画部 内海 博文さん



### まちづくりに積極的に関わりたい

**内海博文**さんは、昨年春に「大村市未来企画部」の一員として活動を始めた。上記・**芦塚**さんも期待する有望株です。

**内海**さんは、「未来企画部」での活動がきっかけで、まちづくりに対する考え方が変わりました。「と、当手を振り返ります。11月に開催された「いす-1 グランプリ九州大会in長崎街道大村宿」では、副実行委員長を任せられ、重役を担うことに。「初めての経験が多く最初は戸惑いでしたが、何とか成功裡に開催できました。」と**内海**さん。自信につながっています。

「まちづくりに積極的に関わりたいと思うようになった。」**内海**さんは、同じような思いを持った人たちが集えるワーキングスペースを、本町アーケードに立ち上げました。フェイスブックで呼びかけ、わがまちについて語り合う討論会を開催するなど、集いの場となっています。「大村のために何かしたい」と思っている人はたくさんいます。さまざまな境遇の人と出会って刺激を受け、意見を交わし、自分の成長につなげながら、活動の幅を広げていきたい。」と**内海**さん。これからの活動に注目です。

## 大村市未来企画部

人と関わって刺激を受け、意見を交わし成長につなげたい。

大村代表として  
本気で優勝を目指しています。

## 大村市消防団

地域の安全・安心を守るため活動する**大村市消防団**。もしもの災害に備え、日々訓練に励んでいます。第15分団の副分団長を務める**松尾政治さん**。30歳のときに入団しました。「先日の大雨の時も出勤しました。災害はないのが一番ですが、もしものために訓練は必要です。」と、消防団の活動には積極的に参加しています。

2年に1回、8月に開催される長崎県消防ポンプ操法大会は、団員の技術が試される重要な競技大会です。県内のチームが全国大会で優勝するほどレベルが高く、**本市消防団**も選

抜チームを編成し、訓練を繰り返します。今回、松尾さんはこのチームで指揮者を担当。「10年前に出場した際、優勝チームの足元にも及びませんでした。その時のリベンジに燃えています。」と、熱く抱負を語ります。

半年もの間、週3回、夜遅くまで必死で訓練を重ねてきた選手たち。「優勝すれば大村初。大村の代表として、チームワークを大切に本気で優勝を目指しています。」と松尾さん。決戦は、8月7日に県消防学校(森園町)で行われます。選手力になるよう、ぜひ応援にお越しく下さい。



【ひとが元気=まちが元気】



JA青年部で学校給食の食育活動に携わっていた**田崎さん**。「学校ではあんなに笑顔で給食を食べているのに、実は心から笑えていないのではないかと不安になった。」田崎さんは、そ

生活上の課題を持つ子どもたちの支援に取り組もうと、大村で立ち上がった人たちがいます。農業を営む**田崎裕隆さん**は、この課題に直面し、「地域の子どもを地域で守り育てる活動を始めた」と、SNSで募ったところ、多くの人が共感。その日から仕事の傍ら会議を重ね、「**大村子ども食堂**」がオープンしました。

6月18日、大学生やボランティアの協力を得て、無事にオープン初日が終了。「これから試行錯誤を重ね、食事を通して地域がふれ合えるスペースにしていきたい。この活動が各地に広がり、子どもたちの居場所が一つでも多くできることを願っています。」と田崎さん。子どもたちの笑顔を取り戻す活動は、まだ始まったばかりです。

## 大村子ども食堂

きっかけは、子どもが好きだから。  
困っている子どもを助けたい！



03  
ひとが元気  
まちが元気

### 10年越しのリベンジに挑戦！

大村市消防団・ポンプ操法大会指揮者  
松尾 政治さん

### 活動フォト

①選考会で選ばれた5人の選手。半年間、黒丸町の総合運動公園駐車場で厳しい訓練を重ねてきました。②訓練は夜間にまで及びます。放水までのスピードや動作を繰り返し練習。

①第1回目の子ども食堂を終えたメンバー②会議は仕事が終わってから集合。遅くまで計画を練ります。③1回目の献立はカレーとサラダなど。食材やトレーなどはすべてご寄附。

### 活動フォト

大村子ども食堂実行委員会 代表  
田崎 裕隆さん



04  
ひとが元気  
まちが元気

### 子どもたちの居場所を作りたい

## 大村子ども食堂

地域の交流が元気の源。  
自然のおいしい恵みをどうぞ。

## よってみゆうか えびねの郷

### 地域の大自然の恵みでおもてなし

菅瀬ダムのほとりにた  
たずむ「北川内公民館」。  
週末になると、市内外から  
ファンが訪れる「よってみ  
ゆうか えびねの郷」直売所  
がオープンします。

直売所ができて7年。代  
表の栗山ひさ子さんたち  
が、高齢化していく町内を  
盛り上げようと考えたの  
が始まりでした。「北川内  
地区でとれた棚田米や、地  
元食材を使ったお惣菜な  
どを知ってほしい」。その思  
いから県内初・公民館の直  
売所が誕生。町内の皆さん  
が協力し合って運営する、  
憩いの場となりました。

然の恵みがずらりと並び  
ます。「すべて手作り。おい  
しいものがいっぱいです。飽  
きさせないように惣菜の  
開発にも取り組んでいま  
す。」と栗山さん。年に3回  
のお祭りでは、町内会総出  
でしし汁の振る舞いやもち  
つきを行うなど、地域活  
性の一翼を担っています。

「えびねの郷」ができてか  
ら町内の人たちと顔を合  
わせる機会が増えました。  
年齢層は高いですが、地域  
の交流が元気の源になっ  
ているのかもしれない。と  
栗山さん。こころは、自然の  
恵みと地域の皆さんの笑  
顔がおもてなしです。



えびねの郷活性化協議会 会長  
栗山 ひさ子さん

#### 活動フォト★

①年に3回のお祭りは、多くの買い物客  
でにぎわいます。②こんにやく芋から栽  
培した「手作りこんにやくフライ」は、人気  
商品。③品ぞろえ豊富な店内。野菜や  
惣菜、手作り雑貨などが並びます。



【ひとが元気=まちが元気】

①くすのき文庫で練習したのがはじまり。  
②集まったメンバーで読み聞かせを  
行う自由な活動。③依頼団体のテーマに  
そって絵本選び。男性ならではの読み  
聞かせに子どもたちは大喜び。

#### 活動フォト★



### えほん侍 代表 岩崎 秀雄さん



男性だけの絵本読み聞  
かせグループ「えほん侍」。  
毎月第3日曜日の「イクメ  
ンパパのおはなし会」を、子  
どもたちはとても楽しみ  
にしています。

「えほん侍」は、平成23年  
に結成。現在、年齢も職業  
もさまざまな約30人が活  
動しています。結成当初か  
ら活動している岩崎秀雄  
さんは、3児のパパ。「最初  
は育児参加のきっかけと  
思っていたが、絵本の世界  
にはまりました。」と、当時  
の心境を語ります。

今では、市内外のいろい  
ろなイベントにひっぱりだ  
こ。岩崎さんは、「子どもた  
ちが喜んでくれるので、自

### 読み聞かせがパフォーマンスに!?

分たちも楽しみながら活  
動を続けています。それぞ  
れの読み手が、絵本を通し  
て何を伝えたいかテーマ  
を持って読み聞かせ。気づ  
いたら、ちょんまげつけて  
パフォーマンスになっていま  
した。」と、いつしか、ボラン  
ティアを通り越した活動  
になっていたとか。

これまでの活動を楽し  
そうに語る岩崎さん。これ  
からの展開をお伺いする  
と、「公園の一角に、絵本を  
持ち寄ってカフェ風な野外  
図書館を開くことが目  
標。皆さんも一緒に楽しみ  
ながら活動しませんか。」  
と、まだまだイクメンパパ  
を募集中です。

### えほん侍

一緒に活動しませんか??  
まだまだパパ友募集中です。

農家の思いが詰まった果物を  
ぜひ味わってほしい。



07  
ひとが元気  
まちが元気

### 1年中楽しめる農園を目指して

大村市観光農業振興協議会 会長  
大又 耕治さん

暑い夏を過ぎると、実りの秋を迎えます。市の北部には多くの果樹園が点在しており、8月下旬から9月中旬ごろまで、ブドウ狩りやナシ狩りを楽しむことができます。

### フルーツの里ふくしげ

大又耕治さんは、福重地区で観光農業振興協議会の会長を務め、自身は野岳湖のほとりで農園を営む青年農業者です。「**フルーツの里ふくしげ**」で地域を盛り上げようと、9月の第1土・日曜日に収穫祭を開催。毎年たくさんの観光客でにぎわいます。「1件の農家は小さくても、地域でまとまると大きな力になります。毎年、楽しみに来て

くれるお客さんのためにも、日頃の手入れを怠れません。」と大又さん。農業への情熱が感じられます。

大又さんの農園で採れたブドウは、収穫祭にも出品。農園ではブドウ狩りもできるほか、さまざまな種類の果物も栽培しています。「一年中、果物を楽しめる地域を目指しています。果物の木は、春には花が咲き、辺り一面にとってもよい香りが漂います。自然相手で大変ですが、農家の思いが詰まった果物を、ぜひ味わってほしい。今年もおいしく仕上がりしています。」と、大又さんは自信たっぷり。実りの秋に向けて準備万端です。

#### 活動フォト

①毎年、9月にフルーツの里ふくしげで開催される「収穫祭」は大盛況。②8月中旬からブドウ狩りが楽しめます。③大又さんの農園は、秋には一面がコスモス畑に。たくさんのお客でにぎわいます。



ひとが元気=まちが元気

#### 活動フォト

①開校式ではさっそくロープ結びの基本を学びます。②6月には、泥んこまみれになりながら田植え体験。③7月のキャンプ体験に集まったメンバー。玖島崎キャンプ場で飯盒炊飯を学びました。



ボーイスカウト大村第1団 団員長  
宇津宮 正昭さん



08  
ひとが元気  
まちが元気

### 子どもに生きる力を養ってほしい

「子どもは、外で遊ぶ体験を通して、さまざまなことを学び、勇気や行動力を備えていきます。」と、宇津宮さんは思いを語ります。

が目的。普段できない体験を通していろいろなことを学んでほしい。」と、宇津宮さんは思いを語ります。

元自衛官の経験を生かし、今では野外活動の伝道師として大村で活躍を続け、現在も多くの子どもたちが通っています。平成18年には、放課後子ども教室野外体験活動の一環として、「**三浦野性の森**」を立ち上げ、毎年25人の大村の子どもたちと野外活動を楽しんでいます。「大村の子どもたちには生きる力を養ってもらいたいこと

「**三浦野性の森**」では、4月から1年間、田植えやキャンプ、秘密基地づくりなど、わくわくするような活動が展開されています。「最近の子どもが変わったのではなく、周りの環境が変わっただけ。参加した子どもたちは、一年でみるみるたくましくなっています。生きていく力を実感できているからですよ。」と宇津宮さん。これまでの40年の経験が、子どもたちにもしっかりと伝わっています。

### 三浦野性の森

普段できない体験を通して  
いろいろなことを学んでほしい。

松原の魅力は  
誰もが気に入ってくれるはず!

## 長崎街道松原宿マルシェ

### 宿場町のにぎわいを取り戻す

江戸時代、長崎と小倉を結んだ長崎街道。市内には2つの宿場があり、にぎわっていました。その一つが松原宿。街並みは今でも当時の面影を残しています。

松原に住む**土屋佳代子**さんと**福田智江**さんは、わが子が小学生の頃に出会ったママ友。「この20年で松原小学校の児童数が半減。不安になりました。松原の魅力を発信して移住者を増やしたい。」と考え、古民家でのマルシェを計画。平成27年4月に「**松原宿マルシェ**」を結成しました。

一回目の開催は、同じ年の9月。お二人が、市内外を奔走し出店者を集めた。

した。地域の皆さんの協力で、旧松屋旅館や空家の古民家を出店場所として確保。歴史景観とマルシェが融合する「**松原宿マルシェ**」が開店しました。来場者は延べ800人。「閑散としていた通りが人であふれかえった」そうです。

開催する毎に規模は拡大し、3月は3,000人を超える来場者が訪れました。うれしいことに移住希望の声も。「松原の魅力である歴史と大自然は、誰もが気に入ってくれるはず。二人でも多く移り住んでくれれば、まちもにぎやかになる。」お二人の地元への熱い思いが地域を動かします。



長崎街道松原宿マルシェ事務局

**土屋 佳代子**さん(写真左)  
**福田 智江**さん

#### 活動フォト\*

①松原くんちを盛り上げたスタッフとともに記念撮影。②ゴールデンウィークは、野岳湖公園でもマルシェを開催。③古民家とマルシェが融合するめずらしい光景。④江戸時代の宿場町のにぎわいを取り戻したような松原宿。



④

## 大村が元気な理由

大村を盛り上げている人たちはたくさんいます。大村を愛する思いが地域の魅力に気づき、価値を高めながら、地域づくりに生かされているのです。そこに人が集まり、住民主導型の地域づくりが実現しています。

「大村は元気だねえ。」といわれる理由は、故郷を盛り上げようという熱い思いを持った皆さんが、元気に活動しているからなのです。



ひとが元気 まちが元気